

# 法の水茎

(40)

大正大学講師 高橋秀城

心なき

身にもあはれは

知られけり

鳴立つ沢の

秋の夕暮れ

(西行『山家集』)

（風流を解さない私にも、しみじみと心に沁みてるよ。鳴が飛び立つ秋の夕暮れを見ていと）

日に日に秋の気配が感じられるようになってきました。山からは紅葉の便りが届きはじめ、高い空には、鳴や雁などの渡り鳥が飛び交っています。地上では栗などの果実が実って、秋花とも呼ばれる菊が咲き、コオロギなどの秋の虫も盛んに歌を奏でていきます。

「秋の日は釣瓶落し」という言葉があります。近ごろは見ることも少なくなりりましたが、井戸の水を汲み上げる桶（釣

瓶）は、真つ直ぐに井戸に落すことから、秋の夕陽の沈む早さに喩えられました。

冒頭の「心なき」の歌では、夕暮れの一瞬が切り取られています。暮色に染め上げられた茜色の光景は、いつしか鳴の羽音とともに夕闇へと包まれたのでしよう。

夜になれば、空には皓々と月が照り輝きます。雲消えし

秋の半ばの  
空よりも  
月は今宵ぞ  
名に負へりける

(西行『山家集』)

（雲一つない仲秋の十五夜よりも、今宵の九月十三夜のほうが名月にふさわしいよ）

秋には二つの月夜が愛でられます。名月として名高い中国伝来の陰曆八

月「十五夜」と、日本で始まった九月「十三夜」です。満月の十五夜に対して、少し月が欠けた十三夜は「後の月」と呼ばれ、収穫した栗や豆をお供えします。

今年の十三夜は、十月二十五日です。前日の二



澄んだ秋の夜空に月が照り輝く（撮影・高岡輝幸）

十四日は、二十四節気の「霜降」に当たり、山野の木々も艶やかに色づいてくる頃でしょう。少しずつ冬の足音も聞こえてきます。十五夜に比べて十三夜は晴れやすいと言われませんが、冴えわたる空気の中で、今年の月は

どのような表情を見せてくれるでしょうか。これまで何回かにわたって「生・老・病・死」という人生の四つの苦しみを考えてみました。日々の経験から「老い」と「病」は身近に感じられますが、すでに経験済

した。生まれ生まれ、生まれ生まれ、生の始めに暗く、死に死に、死に死んで、死の終りに冥し。

(空海『秘蔵宝鑰』)

ここでは「生」と「死」が五回も重ねられています。口に出してみると、その繰り返しのリズムから、どこか不思議で神秘的な感じも漂います。

「生」は「暗」く、「死」は「冥」いものと空海は説きました。遥かに生を遡っても、また逆に死を尋ねても、結局は答え（光）を見出せない「暗闇」が待っているのでしょうか。

ちなみに、「暗」の字はもともと「形がみえず、音のみ聞こえる」状態を指し、「冥」は「死者の面を覆う巾」を表しています（『字通』による）。

同じ暗がりでも、何となく違いを心に思いつかべることができそうです。では、私たちが今生きている世界も暗いのでし

## 折り折りの記 (74)

波多野 重雄

### 眼白来て眼黒去りゆく島の烟

小笠原諸島は大陸と無縁な島として、平成二十三年（二〇一一）に世界遺産に登録された海洋島である。大きな島が父島・母島で、無人島が多い。

私は母島に希少な「ははじめぐろ」の生息を知る。眼黒はつづらな目の縁が黒いだけで、眼白と同じ鶯色をした小鳥で、「眼白押し」という言葉のように群れて飛ぶ。番は夜、木の枝に「接触睡眠（人と同じ）」する。珍しい習性があり微笑ましい。母島にのみ生息する特別天然記念物である。

(高尾山健康登山の会々々)

## 晩秋遊歩

厚木市 荒井 一雄

我を追ひ

越したる若きカップルに  
『お幸せに！』と声をかけたり

独登深山

遙拝霊山

菊酒好日

飛鳥雲間

独り、高尾山に登り、遙かに、富士山を拝す。菊の花の浮かぶ酒杯は、今日の好き日に打ってつけ、飛ぶ鳥は、悠然と雲の間に...

ようか。福田亮成先生は、この空海の言葉について「今生きている生命こそ、明くる見える。責任を持つべきものと云っているのではないのでしょうか」と説かれています（『空海「秘蔵宝鑰」をよむ』）。「生」と「死」の闇に押しつぶされそうになっても、この世の輝きに目を向けることによって、光（答え）を探し当てることができるとを教えてくれているように感じるのです。

そして、  
一千水ヲ敷ク  
十三ノ夕べ  
煩惱雲消ス  
観念ノ宵  
（一千里の土地に氷を敷き詰めたように煌めいている、十三夜の夕べ。悩み事が全て消え失せる、心静かに思い巡らす宵に）  
という『和漢朗詠集』を踏まえた漢詩を作り、合わせて和歌も詠じました。  
一人居て  
雲井の月を  
眺むれば  
心のうちぞ  
晴れまきりける  
(頼瑠『真俗雑記』)

（独り満月の前に座って、空の彼方にある月を見遣っている、心の中の雲や霧が晴れて行くことよ）  
頼瑠は、闇夜に輝く月を頼りに、心の中もきれいに研ぎ澄ましています。実際の月を眺め（詠め）ながら「心の月」を冷静に見つめていたのです。  
月は、苦しみを取り除いてくれます。「秋の夜長」に心を洗い清めれば、昼間の自然の秋色も、いつそう明るく色づいて見えてくることでしょう。  
(栃木北部教区普濟寺中)

## たび重なる台風、並びに大雨災害により被害を受けた皆様にご挨拶申し上げます。

このような自然災害により、お亡くなりなられた方々の御冥福をお祈りすると共に、水害などの被害に遭われて困難な生活を余儀なくされている方々に、心よりお見舞い申し上げます。そして、皆様にも一刻でも早く平安な日々が訪れますよう、御祈念申し上げます。

大本山 高尾山 薬王院